

環創環評第 119 号

平成 18 年 7 月 3 日

神奈川県知事 松 沢 成 文 様

横浜市長 中 田 宏

川崎発電所リプレース計画に係る環境影響評価方法書に対する意見について  
(回答)

平成 18 年 5 月 11 日環計第 23 号により照会のありました標記について、別紙のとおり回答します。

担当：環境創造局環境保全部環境影響評価課

岩田、杉原、松本

電話 045-671-4105

## 別紙

### 1 全般的事項

川崎発電所リプレース計画（以下「本事業」という。）は、東日本旅客鉄道株式会社（以下「事業者」という。）が、首都圏における鉄道輸送のための電力を確保すると共に、鉄道輸送サービスの向上を図ることを目的として、川崎市川崎区扇町8番3号において計画しているものである。

本事業は、現在稼働している4機の発電設備のうち、老朽化した重油を燃料とする1機と灯油を燃料とする1機（計2機）を廃止し、新たに天然ガスを燃料とするコンバインドサイクル発電方式による3機の発電設備（合計約60万kW）を設置しようとするものであり、発電出力は増強されるが、窒素酸化物等の大気汚染物質の排出量は低減されるとしている。

計画地は横浜市鶴見区の市境から東北東約1kmの位置にあり、南西側を田辺運河に接する。計画地南東方向にある京浜運河に復水器冷却のための海水取水口を設置する計画である。計画地内には発電設備、燃料タンク、事務所等の既存施設が複数存在し、将来も存続する工作物の最も高い部分は50mに近く、既存の煙突の高さと同程度である。

本事業により環境影響が及ぶと想定される横浜市地域における、平成16年度の二酸化窒素濃度の状況は、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに、横浜市環境管理計画に定める横浜市環境目標（日平均値0.04ppm以下）に適合していない。また、周辺海域の水質調査結果では、ほとんどの調査地点で全窒素、全りん的环境基準に適合しておらず、東京湾の神奈川県寄りの海域における赤潮発生件数は横ばいで推移している。

計画地の近傍には、現在、東京電力株式会社の東扇島火力発電所、川崎火力発電所、横浜火力発電所が稼働しており、今後、川崎天然ガス発電所、扇島パワーステーションの稼働が予定されている。

以上を考慮し、環境影響評価項目の選定、調査及び予測の手法の選択を適切に行い、環境影響評価を実施する必要がある。

### 2 個別的事項

#### (1) 事業計画について

ア 将来の電力需要増加の根拠を示し、発電出力増強の必要性について、具体的かつ、わかりやすく準備書に記載する必要がある。

イ 全ての発電設備について、電力需要の変動に連動したDSS（Daily Start-up and Shut down）運転を行うことから、脱硝触媒の活性が十分でなく、排出ガス速度も低い非定常運転時間帯が日常的に発生する。また、今後も存続する既存発電設備の煙突高さは、周辺工作物に対してほぼ同じ高さであり、今回計画されている新設発電設備の煙突高さも、既存工作物に対してダウンドラフト、ダウンウォッシュを回避するために必要とされる2.5倍の高さが確保されていない。そのため、既存設備を含む全ての発電設備の稼働パターン及び非定常運転時を含むばい煙の排出諸元、煙突及び周辺建物等の工作物の位置、形状を明確にし、準備書に記載する必要がある。

ウ 計画地では、既存の発電設備において、起動時等にダウンウォッシュ、ダウンドラフトが

発生していると考えられることから、その影響を適切に評価したうえで、新設発電設備を含む発電所全体として起動時等の環境負荷をできるだけ低減するような対策を検討し、準備書に記載する必要がある。

エ ばい煙の排出諸元については、コンバインドサイクル発電方式で窒素酸化物排出濃度を5 ppm よりも低く計画している事業者もあることから、さらに環境負荷を低減できる機種を基準とした諸元を設定する必要がある。

## (2) 環境影響評価項目について

### ア 工事中

#### (ア) 大気質

- a 本事業は10年以上にわたって工事が行われ、工事期間中は段階的に新たな発電設備が稼働し、工作物の状況にも変化がある。そのため、工事の段階に応じて、周辺工作物の影響を考慮したダウンドラフト等の予測評価を行い、対策を準備書に記載する必要がある。
- b 工事用資材の海上輸送に伴う、船舶からのばい煙が及ぼす大気質への影響を予測評価し、対策を準備書に記載する必要がある。

#### (イ) 廃棄物等

既存の設備や工作物の解体撤去に伴い、アスベストやPCBを含む廃棄物の発生が考えられることから、その調査、対策の考え方を準備書に記載する必要がある。

### イ 供用時

#### (ア) 大気質

- a DSS運転の起動時や停止時を含め、計画地内の工作物及び計画地周辺の工作物によるダウンドラフト等の影響について、適切なモデルを使用して予測評価し、対策を準備書に記載する必要がある。
- b ばい煙処理設備として乾式アンモニア接触還元法による排煙脱硝装置を用いているが、リークアンモニアによる環境への影響について、適切に予測評価し、対策を準備書に記載する必要がある。

#### (イ) 水質

一般排水の処理水が閉鎖性海域である東京湾に排出されることを考慮し、富栄養化の原因物質である窒素、リンの除去効率の高い合併処理浄化槽を導入する必要がある。

#### (ウ) 景観

横浜港方面からの眺望点として、鶴見つばさ橋付近を選定するよう検討する必要がある。